



2017年  
11月10日  
NO.424

九州旅客鉄道労働組合  
福岡市博多区博多駅前2丁目3-23  
TEL 092-472-7950(代)  
URL http://www.jr-krwu.org  
発行人/中原博徳 編集人/住吉一家

# 連合福岡第20回定期大会

## 高島喜信氏が勇退 新会長に西村芳樹氏

連合福岡は10月27日、福岡市「都久志会館」において第20回定期大会を開催し、向こう2年間の運動方針を決定するとともに、運動を牽引する41名の新執行部を確立した。

今大会では、9年間会長を務め、連合九州ブロックの代表幹事も務めた高島喜信氏（JR連合・JR九州労組）が惜しまれながら勇退し、新たに西村芳樹氏（自動車総連）を会長に選出。JR連合からは中原博徳氏が副会長、大久保浩氏が執行委員（ともに非専従）に選出された。



今大会をもって会長を勇退した高島喜信氏

連合福岡第20回定期大会は、議長団に金光千春代議員（日教組・福教組）及び高田章男代議員（運輸労連）を選出し議事が進められた。高島会長は、10月22日に投票された第48回衆議院議員総選挙に触れ、「民進党は分散してしまったが、イデオロギーを超えて、立憲希望、民進をどうまとめたいか、連合の役割が必要である」と述べた。

また、2018春季生活闘争の取り組みについては4年連続でベアを獲得した背景に中小企業の努力があったことを評価し、時給1000円の早期達成を目指すことや、労働組合の無い



質疑に立つ大久保浩氏



握手を交わす高島氏（右）と大久保氏（左）

企業で働く仲間も含めたセミナーの開催を計画するなどの考えを示した。さらに連合が目指す1000万連合への組織強化にむけ、「議論ばかりするのはなく、具体的な運動を通して組織拡大につなげていくべきだ」と呼びかけた。

連合相原事務局長をはじめめとする来賓あいさつの後、執行部から議案の提案を受け、JR連合を代表して大久保浩代議員（JR九州労組）が質疑に立ち、先の衆議院議員総選挙の取り組みに施行された折田町長選挙への支援に対する各構成組織への感謝の意を述べた。

役員選出では、9年間会長を務めた高島喜信氏をはじめ、14名の役員が退任。会長には、これまで事務局長を務めた自動車総連の西村芳樹氏が選出され、事務局長には電力総連から矢田信浩氏が選出された。また、JR連合からは、中原博徳氏（JR九州労組中央執行委員長）が副会長に



## 連合「中央女性集会」

### JR九州労組から5名の女性役員が参加

10月20日、連合は「男女平等参画社会実現にむけ、諸課題に対する認識を深める」ことなどを目的として「中央女性集会」を開催し、JR九州労組からも5名の女性役員が参加した。

冒頭、神津里季生会長は「私たち一人ひとりが男女平等の取り組みを進める原動力であり、私たち自身が主役となって男女平等参画社会への道を切り拓いていこう」とあいさつした。

また、井上久美枝総合男女・雇用平等局長は、男女平等参画社会の実現にむけた情勢や「連合第4次男女平等参画推進計画」の取り組み状況、2018年度の活動計画について報告を行った。

再任され、大久保浩氏（JR九州労組中央執行委員）が執行委員に選出された。



集会に参加したJR連合の女性役員

基調講演では山口一男氏（シカゴ大学ラルフ・レイス記念特別社会学教授）を講師に迎え、男女間の賃金格差をはじめとする課題についてデータを示して分かりやすく説明を受けるとともに、連合に対する期待が述べられた。

「男女平等参画と女性の活躍推進」をテーマに開催されたパネルディスカッションでは、会場からも多くの意見が出されるなど、活気に満ちた討議が行われ、地域や職種を超えた現状や課題を共有することができた。

中央女性集会の終了後、JR連合からの参加者で意見交換会を実施した。意見交換会では、JR各社における男女平等参画の進捗状況や、各単組における実態について活発な意見が出され、JR九州労組の進める男女平等参画推進の取り組みにも刺激を受ける良い機会となった。

# 第48回衆議院議員総選挙

## 自公政権が2/3議席を獲得

### 「希望の党」は惨敗

10月22日に投票された第48回衆議院議員総選挙は、新党の乱立や民進党の分裂など、政界が混乱する中で実施された。ご支援いただいた組合員・家族の皆さまをはじめ、推薦候補の必勝にむけてご尽力いただいた全ての皆さまに感謝申し上げます。

J R九州労組は、従来通り「我々の政策に賛同し、解決にむけて共に行動する候補者」及び「各県連合が推薦する候補者」を推薦し、必勝にむけて取り組んできた。結果は、政権与党が議席の3分の2を獲得するなど厳しいものとなったが、J R九州労組が推薦する22名の候補者のうち、10名を当選させることができた。



選挙区での当選を決めた原口一博氏（佐賀1区）

9月28日、臨時国会の冒頭で衆議院が解散され、事実上の総選挙がはじまった。世論は、安倍首相による「加計・森友学園問題隠し」と騒いだが、「働き方改革をはじめとする重要法案」の審議さえも置き去りにした許しがたい暴挙ではなかっただろうか。



台風の影響で23日に当選が決まった大串博史氏（佐賀2区）

一方、民進党は小池都知事率いる「希望の党」への合流を決定するが、合流を拒否された候補者が立憲民主党を結党するなど、総選挙は三つまたみとなった。

挙直前に政界は混乱を増し、期待が薄まった希望の党に変わって立憲民主党が頭角を現すなど、総選挙は三つまたみの構図となった。

J R九州労組は、政党にとらわれず従来通りの方針に沿って推薦候補者を決定。結果として希望の党、立憲民主党、無所属など、さまざまな政党の候補者を推薦することとなったが、重点候補に指定した「21世紀の鉄道を考える議員フォーラム」に所属する候補者を中心に九州内で22名を推薦し、各級役員、組合員及び家族のご支援により、各地で闘い抜くことができた。

結果は重点候補が4名当選、推薦候補全22名のうち10名が当選することができたが、重点候補3名が落選し、比例復活もできないという厳しい結果であった。全国的に見ると、政権与党が議席の3分の2を獲得するなど勢力を維持、野党は立憲民主党が躍進したものの、希望の党は惨敗する結果となった。

J R連合は国会議員懇談会に所属する4名を最重要候補、21世紀の鉄道を考える議員フォーラムに所属する候補者を重点候補とするなど、計122名を推薦し、最重要候補及び重点候補22名、全推薦候補者のうち63名の当選を果たすことができた。しかし、最重要候補の伴野豊氏（愛知8区）や複数の重点候補者が落選する厳しい審判を受けた。

労働法制、社会保障、憲法改正など、働く者の生活に直結する課題が山積するなか、国会で我々の求める課題解決にむけて尽力してくる議員との連携は不可欠であり、引き続き国会議員との連携を強化するとともに、今後施行される地方選挙においても、推薦候補者の必勝にむけて取り組むこととする。

大宰府市議会は10月27日、芦刈市長に対する不信任決議案を全会一致で可決。これを受けた市長は30日、大宰府市議会を解散した。大宰府市議会議員選挙は11月26日告示、12月3日投票のスケジュールで実施され、J R九州労組議員団で団長を務める村山弘行氏が8期目に挑む。

芦刈市長は2015年の市長選で現職市長（当時）を破り初当選するも、公約が実現できずに議会との対立が始まった。また8月には「市役所改革に否定的」などを理由に副市長を解職し対立は決定的となった。不信任決議案が可決



されたが、市長は「市長だけでなく、議会も市役所もただされている」と解散理由を説明。議会側は「公約を掲げ、正々堂々闘おう」と選挙戦を受けて立つ構えだ。

村山弘行氏は7期にわたり市議会を支え、J R九州労組議員団も長く牽引してきた。選挙が続くなかではあるが、引き続き組合員・家族のご支援をお願いしたい。

## 太宰府市議会が解散

### 村山弘行氏が8期目に挑む

10月24日告示、同29日に投票された太宰府市長選挙では、J R九州労組議員団に所属する遠田孝一氏が立候補し、J R九州労組は一丸となって支援行動を展開した。

今回の選挙は現職町長が勇退するなか、新人3名が立候補し、激戦を繰り広げることとなった。

遠田氏は選挙戦において、町議会議員としての実績をアピールするとともに、財政の健全化や町のにぎわいを作り出す将来ビジョンを訴えてきた。また、日頃から地域の根差した活動が評価され、5858票を獲得し初当選を飾った。

遠田氏は当選後のあいさつにおいて、支援者への謝意を示すとともに、「町民に寄り添った町政運営に努め、太宰府の発展に寄与していく」と、力強い決意表明を行った。

※組合員・家族の献身的なご支援に感謝いたします。



初当選を果たし中原委員長と握手を交わす遠田孝一氏